

球根を植えてみよう

カノコユリは、環境条件がいいと年々球根が肥大してきます。この10年間カノコユリの普及に携わってきたなかでみた最大の球根は、直径13cm・球根重量617gにもなるものがありました。ただ、この球根は2球に分球しており、分球していない球根では直径10cm・球根重量433gでした。球根の大きさと花の数は比例しており、球根が大きくなるほど咲く花の数は増加します。

花が咲き始める球根の大きさは、早いものでは10gで咲くものもありますが、これはごく一部で、15gではほぼ半分の球根が花をつけ、20gではほぼすべての球根が花をつけます。

30gになると2～3輪、40gでは3～4輪、50gになると4～5輪と球根が大きくなるほど花の数が多くなり、大きな球根では20輪以上の花を咲かせます。

ただし、これは土壌・水・日照などの環境条件が良い場合であり、これらの条件が悪いと逆に小さくなり、花を咲かせなくなって枯れてしまいます。このため、カノコユリの好む場所に植えることが大切です。



① 土壌

自生しているところを見ると、赤土で粘質土の傾斜地に多くみられます。乾燥には強くないようで、砂壤土の真砂土はあまり好みません。ただし、過湿も好まないのので、粘土質の土壌では傾斜地などの水が停滞しない条件を好みます。

② 日照

カノコユリは半日陰を好みます。自生地を見るとほとんどが山裾の傾斜地で、上部には木が茂り、半日は日が陰る所です。こうしたところがあれば最適ですが、庭などでこうした条件でなければ、落葉樹等の下、家の北側・東側などの半日陰になるところに植え、土が乾かないように有機物などでマルチすることが大切です。



③ 水

カノコユリは、土壌が乾燥してくると下葉が薄緑色から黄色っぽくなり葉を落とします。特に、花が咲き始める7月中旬以降、高温乾燥で水が不足すると下葉が落葉します。そうになると、球根は小さくなって翌年は花数が少なくなり、ひどいと花が咲かなくなります。

しかし、この時期に十分灌水を行うと葉が枯れることなく生育し、球根は大きくなりますので、乾燥しやすいところでは1週間に1回程度の間隔で、根がある30cm位の深さまで水がいきわたるように、たっぷり灌水することが大切です。」



8月の開花期はもとより、種が熟す10月まで葉がついていることが大切

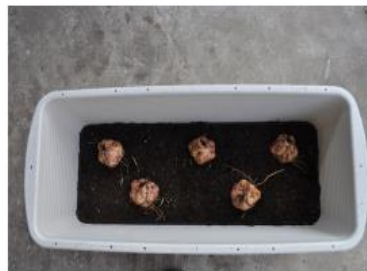
④ 球根の植付深さ

ユリは球根の下から出る下根と、茎の地下部からでる上根があります。下根は、球根から茎が伸びだす生育の初期に活動し、茎が伸び上根が出てくるとこの上根が肥料を吸って生育し、球根が太ります。

そのため、ユリの球根はこの上根が十分張れるように深植えすることが大切です。通常球根の2～3倍の深さに植えます。



植付深さは球高の3倍位の深さとする



プランターに5球植とする。

